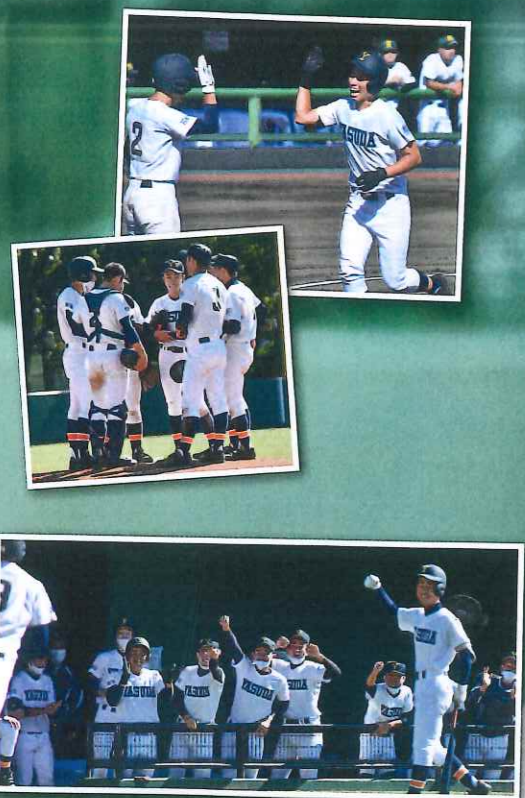


安田学園

「熱く前へ」



エース 吉村優佑(2年)
**成長著しい
 秋季躍進の立役者**
 投手陣に負傷者が相次ぐ中で背番号10をつけてマウンドに立つと抜群の制球力を生かした投球でベスト16進出に貢献した。



秋季都大会ベスト16進出 新体制で2度目の甲子園へ

2013年春の選抜に出場した実績を持つ伝統校・安田学園。昨年秋の秋季都大会でベスト16進出を果たしたチームは、2度目の甲子園を目指して、熱く、前へ進んでいく。

■新エース吉村の好投で秋飛躍
 秋季都大会は、投手陣に負傷者が相次ぎ、チームはスクランブルだった。山田怜央(2年)、山口陽(2年)、藤本航平(2年)の主戦候補がマウンドに上がれず、セットアッパーの右サイド投手・吉村優佑(2年)を軸に戦った。その吉村が大会を通じて急成長。それによって自慢の打撃力が生きる結果となった。1回戦で東農大一を撃破すると、2回戦では実力校・都文館と対戦。先発・吉村が7回まで1点に抑えて1対1で8回へ。8回に1対3となったが、9回表に打線が意地をみせた。土壇場で一挙4点を奪い逆転に成功すると、9回裏はリリーバー・篠田慧(2年)が締めて、ベスト16へ進出した。3回戦では二松学舎大附に対して新エース吉村の好投、主砲・河合吾秀(2年=外野手)の本塁打などで応戦。結果は3対7の敗戦となったが、堂々の戦いぶりをみせた。

■理念は「今日一日の事」
 安田学園は2020年夏まで名将・森泉弘監督が指揮を執った。2012年の秋に都大会を制して2013年の選抜で甲子園初出場を成し遂げると2020年夏までタクトを持ち、同年秋には会田勇氣監督にタスクを渡した(森泉監督は、総監

督就任)。2015年からコーチとして森泉前監督を支えてきた新指揮官は、伝統を引き継ぎながら新たな一歩を踏み出した。チームの土台は、学校創始者の安田善次郎氏の言葉である「今日一日の事」。今を大切に全力で生きる。選手たちは、この言葉を抛り所に練習に励む。そして、会田監督は、秋季大会後にチームスローガンとして「熱く、前へ」を掲げた。「高校野球は、2年半という限られた時間です。チーム一丸となって、熱い気持ちで挑戦してほしいという願いを込めています」(会田監督)。選手たちは、1日1日に情熱を燃やし、前進していく。

■昨年末に髪型自由化、新たな出発
 2022年の夏へ向かうチームは、小畑泰輝主将(2年=内野手)、都屈指の長距離砲・河合の両スラッガーが軸。1年生ながら5番を任されている今井裕治(内野手)も力を伸ばす。投手陣は、秋季都大会で好投した吉村が自信をつけると共に故障者が復



主砲 河合吾秀
 (2年=右翼手)
 フルスイングから強烈な打球を飛ばす右のスラッガー。秋季都大会準々決勝・二松学舎大附戦で本塁打を放った。

帰し、投手層は確実に増した。投打のバランスが整いつつあるチームは、春・夏へさらなる飛躍の予感が漂う。昨年12月には指揮官の提案によって、野球部員の髪型自由化を決めた。「脱坊主」で、チームのタイムラインに新たな歴史を刻んでいく。小畑主将は「チームの目標は『応援されるチーム』。野球の技術だけではなく、精神的にも強くならなければいけない。たとえ技術で勝てなくても、声や雰囲気は負けたくない。チーム一丸となって勝てるチームになっていきたい」と球春を待つ。秋ベスト16は飛躍の序章、このチームには大きな可能性が秘められている。



安田学園高校
 【住所】東京都墨田区横綱2-2-25
 【創立】1923年 【甲子園歴】春1回
 1923年に東京保善商業学校として開校。安田学園中も併設する。もともとは男子校だったが、2014年に男女共学となった。野球部は2012年秋に都大会を制し、翌2013年選抜で甲子園初出場。野球部OBには橋上秀樹(元ヤクルトコーチ)、阿部慎之助(巨人コーチ)がいる。



安田学園・会田勇氣監督
『今日一日の事』が土台
 「学校の理念である『今日一日の事』を土台に、日々の練習、生活を大切にしていくことを求めています。その上で、『熱く、前へ』というスローガンを掲げています。選手と共に目標に向かってチャレンジしていきたいです」

1992年東京都生まれ。明大中野八王子一明大・順天堂大学院。順天堂大学院在籍中から安田学園の学生コーチを務めて、安田学園教員へ。コーチを経て2020年秋から監督。2021年秋都大会ベスト16。2013年選抜出場時のキャプテン・渋谷大輔監督と共にチーム強化を図る。